

# 位置情報ゲームを利用した農村地域の振興

小島 悠揮\*  
(KOJIMA Yuki)

乃田 啓吾\*  
(NODA Keigo)

岐阜県内の農村地域には、隠れた観光資源が豊富に存在する。棚田やため池などの農村を代表する風景の他に、アユやライチョウなどの希少動植物、そしてダムや小水力発電所など農業土木施設などは観光資源としての潜在的な価値が高いものの、岐阜市や岐阜県に隣接する愛知県など都市部の住民にはその存在が十分に知られていない。こうした隠れた観光資源を利用して、都市部からの訪問者、即ち交流人口を増やすことで農村地域を活性化させる可能性がある。そのためのツールとして *Pokémon Go* などに代表される位置情報ゲームに注目した。

位置情報ゲームとは、観光資源等の特徴的な場所を地図上に表示し、実際に訪問するとゲーム上で報酬を得られ、そして報酬の収集もしくはキャラクターの成長を楽しむシステムである。これを利用して、岐阜県内の隠れた観光資源を地図上に配置し、実際に利用者が観光資源に行くことで報酬を得るゲームアプリを開発する。観光資源情報は農村地域の住民や農業土木施設管理者らによって提供されることを想定している。報酬を得た利用者は、岐阜県内の魅力を認知できるとともに、次の報酬を得るために他の観光資源へも足を運ぶことが予想される。農都市部からの訪問者の増加は農村地域の住民や施設管理者にとって、より魅力的な情報や環境を提供するモチベーションとなり、更に多くの都市部住民の訪問を招くという、正のスパイラルが発生する。これにより、農業農村地域が活性化がさらに飛躍的に促進されると考えられる。このようなスパイラルが成立すると、都市部と農村部の経済が接続され、将来的には政府が推し進める対流型都市圏の東海モデルが岐阜県を中心に形成され、農村地域の持続性が構築される。ただし、このようなコンセプトを実現するためには農村地域のネットワーク環境の整備が不可欠である。

また、このようなゲームアプリは魅力的なコンセプト、システム、デザインが伴わなければ利用者が増えず、普及しない。そこで、実際にスマートフォン用ゲームアプリの開発を行っている起業家ら（開発コンサル、ゲームプランナー、システム

エンジニア）との意見交換会を実施した。意見交換会では、位置情報ゲームにも様々なタイプのもので出てきており、報酬収集型やキャラクター成長型、AR型など、ターゲットとなる利用者層によって構築する必要があること、持続的なゲーム開発のために収益を得る仕組みが重要であること、情報提供者の充実が重要であることなどが議論された。情報提供者については、行政との連携によって解決できる可能性があり、居住者の情報提供以外にも行政が持つ観光資源情報を提供してもらうことが考えられる。それに対し、ゲーム上での都市部住民の移動パターンを大学が解析し、県、市町に提供することで、行政はより適切な農村地域への振興支援を実施することが可能となるため、相互に利益のあるシステムを構築できる。また、様々な機関や個人が持つ観光資源情報をデータベース化することが重要であり、これは地方大学が担うべき重要な役割であることが指摘された。収益性の問題については、教材として小中学校での利用なども解決策として考えられる。

今後はコンセプトの実現に向けて岐阜大学の農学系および工学系の学生らの合同ワークショップを立ち上げ、実現に向けたアイデアの更なる構築を進める予定である。

\* 岐阜大学 地域環境変動適応研究センター

# 位置情報ゲームを利用した農村地域の振興

岐阜大学地域環境変動適応研究センター  
小島悠揮, 乃田啓吾

岐阜県の豊富な未発掘観光資源を活用し、位置情報ゲームを利用して都市部からの観光客を増やす

## コンセプト

大学の役割：大学のネットワークを活用した  
観光資源の発掘，資源情報のデータベース化

企業との連携：地図上に表示される観光資源まで  
実際に行くことで報酬を得るシステムを開発

### 農村地域

農業生産現場

- ・棚田
- ・スマート農業

豊富な動植物

- ・野生動物
- ・花卉

農業土木施設

- ・ダム
- ・小水力発電



ネットワークの整備が不可欠！

観光資源情報を提供



観光促進 & 農村経済活性化

### 都市部

アプリ上で  
農村の情報を  
チェック

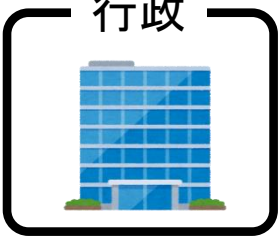


気になったら実際に  
行ってみよう！



現地で報酬をゲット。  
次の報酬のために翌週も農村に。

### 行政



行政との連携②：  
適切な支援策立案を  
サポート

行政との連携①：  
ユーザーの行動パターンを解析。  
行政への情報提供。

上記コンセプト実現への課題：魅力的かつ持続可能な位置情報ゲームの開発が必要

利用者層は誰？ 報酬は何？ 教材としての利用は？ etc..

農学系と工学系の学生らによる合同ワークショップで議論する